掲載ビデオの説明

これらのビデオは、筆者がフィリピン北部の山岳奥地で、イゴロット族と呼ばれる集団の、主にカンカナイ部族にたいして、宣教師として働いていた様子です。筆者は１９７７年から１９０１年まで、避暑地で有名なバギオ市に隣接する、イトゴン村に滞在し、宣教師として働きましたが、ビデオの収録期間は、日本でこのようなビデオ機器が発売され始めた、１９８７年ころから３年少々のことです。また、この地域は世界的に見ても最も降雨量の多い地域で、１年の半分は土砂降りの雨が続き、山岳奥地に入ることは不可能に近かったため、雨季には近くの集落や、山を下りた海岸線に住む、イロカノ族を相手に活動をしていました。

カラーのビデオ撮影機は、まだ発売されて間もなくのことで、とても大きく重く、撮影時間も限られていましたし、映像も不鮮明です。また編集機能を持つ機器は大変高価であったために、これらのビデオは、およそ２時間に及ぶ１本のテープを、ただ３０分前後に短くしただけです。なんとか忍耐してご覧いただければ幸いです。

また、引っ越しやテレビ会社への貸し出しで、失われたテープも多いのは残念ですが、たまたま手許に残っていたものを、帰国後に、DVD に移しておいたものです。

なお Youtube に載せて下さったのは私の友人で、撮影された順序などは全くご存じなかったため、それぞれのビデオの番号は、時系列にはなっておりません。ここでの説明は、ビデオの番号に従って行いますので、お許しください。

ビデオの鑑賞の仕方には、大きく分けて二つあります。すべてのビデオの写真付き一覧を見、その中から希望のビデオを見つけ出したい場合は、以下の URL を Ctrl キーを押しながら（ウインドーズの場合）もしくは Command キーをおしながら（マックの場合）クリックしてください。①　を用いるとすべてのビデオの一覧が、写真付きで表示されます。②　を用いると僅かの写真付き表示だけ出ますので、写真の上の「動画」という文字をクリックしてください。改めてすべての写真つき表示が出ます。

①
https://www.youtube.com/@%E4%BD%90%E3%80%85%E6%9C%A8%E6%AD%A3%E6%98%8E-m9t/videos

②
Masaaki Sasaki YouTube Channel

　もう一つは、以下のビデオの説明に付いている URL を、Ctrl　キーか
Command キーを押しながら、クリックしてくださる方法です。

　以下、個々のビデオの説明です。

ビデオ　1　　ロンボイ

https://www.youtube.com/watch?v=OOEeTztYgbw&t=283s
フィリピン北部山岳奥地宣教１ - YouTube

このビデオでは、ロンボイ集落で行われた教区のフェローシップ集会の様子。次に、バギオ教会の礼拝会の様子。最後に短く、私の協力伝道者を長く務めてきたフィリピン人が、私の日本教会巡回の折、少しの間一緒に日本を回り、日本の教会で歌う場面がありました。フィリピンの教会との違いに、驚かれますか？

　まず、ロンボイ集落で行われた教区のフェローシップの様子です。ロンボイは大変不便な場所にあり、普段は歩いて数時間を費やさなければなりませんが、このような集まりの時は、ごっつい野菜運搬用の車を持っている信徒が、みんなを乗せて来るとか、トラックを借り出してみんなで乗って来るとかします。

　この時も、場所のことを考えると、結構な人たちが集まったと思います。山岳地に住んでいるイゴロットは、平地の人々に比べると物静かで口下手。集会も穏やかなものですが、日本の教会に比べるとやはり感情的です。食事が楽しみなのはどこも同じですね。

　１５：４０からは、バギオ教会の礼拝会の様子です。これは開拓４年目だと思います。普段私はこの教会にはあまり行きません。立派な牧師たちがいるからです。私はもっぱら、小さく弱い開拓教会を回ることにしていました。また、集会の集会の持ち方などには、殆ど何の指導もしません。でも、さすがにカオス状態になると、私が出しゃばります。この教会でも熱心な大学生を中心に、受付から挨拶、席への案内の仕方、はじめての人たちの住所などを聞き出し、保管することなど、それから簡単なカウンセリングも、週日の内に教えておきました。この日は、その実践をする場で、教えられた大学生は、少し私を怖がっているようです。

　３０：１５　私の協力伝道者が、私と共に日本に来て、幾つかの教会をまわったことがあります。そのときの集会に出席していた女性たちが数人、彼の歌を聴いてすっかり失望

し、自分たちはクリスチャン・シンガーとしてレコード・・・・・テープでした・・・を出す予定で練習を積んでいるのですが、まったく素人のこの方の歌を聴いて、私たちではとても駄目だと思って・・・・。失礼ですが私は、彼女たちを励ますのは止めました。集会前に。彼女たちの練習の様子を見ていていたからです。

この集会に偶然出席しておられた先輩の山田牧師が、これまた歌が上手な方でしたが、すっかり感激して、明日にも自分の教会に来て、歌ってほしいということでした。明日は集会の無い日ですが、信徒たちにも是非聞かせたいから、彼らを電話で呼び出しておきますと、張り切っておられました。

その臨時の集まりの様子が３０：１５から始まります。やっぱり私は日本の集会の方が好きですね。これはフィリピンの珍味カレカレよりも、リチョン・バボイよりも、あるいはワトワットよりも、日本の刺身が好きというのと同じで、それで育ったものが好きというだけのことです。それにしてもフィリピン人は歌が上手いですね。このビデオで歌っていた彼も、あれから４０年近く、今はもっともっとうまく、味のある歌い方をしますよ。特に、このころはできなかった、ピアノからピアニッシモのなめらかな流れは、たいしたものです。

ビデオ　２　　ナトブラン

https://www.youtube.com/watch?v=pZpHewC3EKQ

私たちの開拓伝道では、２番目に早く始められた開拓伝道の、ナトブレム教会。海抜２０００ｍを少し超える高地にあり、第二次世界大戦以前に移住してきた、日本人によって教えられた高原野菜を育てて、生計を立てている人たちが住んでいます。比較的開けた土地です。ただ、どういうわけか伝道は非常に難しく、今まで多くの教会が開拓を試みてきましたが、困難を極め、私たちが開拓を試みたときは、一家族が信徒という教会が一つだけ存在していました。私たちは、まず私たちのことを知ってもらうのが先決と、発電機と映写機を借りてきて、クリスチャンの映画を見せようとしたのですが、夜は濃い霧に包まれ、映像はみな霧に映ってスクリーンに届かず、まったく失敗してしまいました。

でも次の日の朝、唯一のレストランで食事をして出てくると、入り口付近にたむろして

いた酔っ払いの男どもと、立ち話を話しました。その内の一人が、この集落の地区長だったため、彼と話しこみ、彼を通して村の所有であった土地と、半分壊れたブロック造りの建物を、無料で手に入れることが出来ました。彼とその家族は、その後、私たちの教会の中心的なメンバーとなり、酷い酒癖も治り、大きな力となってくださいました。

ビデオ　３　　ボエン第２日目

https://www.youtube.com/watch?v=SnC-BT7MLiU&t=270s

１９８８年２月２０日。ボエンのカンニャオ伝道の成果を見ようと、近隣の会衆のクリスチャン、さらに土地の人々を集めて交わり会をしました。そこに、土地の長老が正装で参加してくださいました。これは私たちが、この集落で受け入れられたということになりました。ずっと後で（３０数年後）分かったことは、そのとき牧師をしていた人の奥様は、その長老のお嬢さんということでした。感動!!

私たちは土地の宗教を単に偶像礼拝として排斥せず、その中に聖書の神、聖書の信仰に通じる点を見出して、それを通して伝道をするという方法を採りました。使徒パウロが、偶像で満ちているアテネの町で、心の中で偶像礼拝に対する憤りを感じながらも、アテネの偶像礼拝者に厳しい言葉を投げかけたり、糾弾したりすることなく、彼らが知られない神までもないがしろにしない、立派な信仰者であることを賞賛し、その上で、天地をお造りになった神を紹介しようと努めた事例を、模範としたのです。

イゴロットの神意識は、日本の神道の気高い神意識によく似て、聖書の神意識にも似ているのです。ともあれ、このとき私たちは地域社会の倫理観、共同体感覚を理解しようと努め、その理解に則って宣教の業を進めようとしたのです。幸いこの教会はしっかりと地域に根差すと共に、もうこれ以上田畑を造ることが出来ない狭い土地を出て、新しい場所で新しい共同体をつくろうとした人たちが、離れた土地で新しい教会を作り上げています。素朴な人たちが、素朴な心を神様に向け、素朴に礼拝し、さらに素朴に人間同士の交わりを楽しんでいる姿を、ご覧いただきたいと思います。

人間は神の姿に似せて造られ、目に見えない神、手で触れることもできない神、人間の

言葉では説明することもできない神を、しっかりと感じる心が与えられ、さらに人間同志は愛の神様に似せて造られ、互いに愛し合い、助け合い、いたわり合い、赦し合いながら生活できるようにされているのです。

ビデオ　4　　ボエン第一日目

https://www.youtube.com/watch?v=CuJsn0BGNTU&t=327s

ボエンにおける交り会の第一日目、山岳奥地の清々しい朝の情景をお楽しみください。そして楽しそうな集会。豪快な豚の屠殺と裁き方、アメリカーナと呼ばれる古い背広、赤い褌の正装をした集落の長の登場、洗礼式の様子、厳しい傾斜に造られた棚田の様子などを、お楽しみください。この教会の建物は、松の大木を６本買い、４フィートのチェンソーで材木にし、大工仕事には自信あるという、二人のフィンランド人宣教師の手助けを借りて、２日間で骨組みを作り上げ、あとは、信徒たちに任せて置いたものです。教会が成長していることに、喜びを新たにしました。

ビデオ　5　宣教論ナレーション

https://www.youtube.com/watch?v=D5xyeeU-yCU
https://www.youtube.com/watch?v=D5xyeeU-yCU&t=1318s

山岳奥地からの帰途の道での、私の宣教論のナレーション、平地の隣の教区の青年たちの交わり会、海岸都市サンフェルナンドでの開拓伝道の有様の三つの映像が入っています。ナレーションでは、私たちの宣教論の基本的考え方が語られています。この宣教論のナレーションは、私たちがフィリピンの宣教活動を終えて帰国し、しばらく経ってから入れたものです。

平地の教会の青年たちの交わり会は、土地のハイスクールの校舎を借りて、礼拝会とスポーツに興じる様子です。男子はバスケットボール、女子バレーボールをしていました。バレーボールは、フィリピンで一番好まれているスポーツで、男子ならば、大抵、どこでもある質素なコートで遊んでいます。女の子がスポーツをやっているのは見たことがありません。実際、この時初めて見ました。

次は、サンフェルナンド市での開拓伝道第一日です。サンフェルナンドは人口おおよそ１０万少々の港町。私の住居から７０～８０ｋｍ。この時まで、私たちの仲間たちは幾度か伝道を試ましたが、 すべて失敗していました。私たちはこの町に伝道をはじめ、教会を開く計画を作りました。バギオ市近辺の、私に関りがる三つの教会から 20 数人の青年男女を集め、土曜日にこの町に集結し、寝食を共にして学びと 2 人一組の訪問伝道を試みました。

毎週 20 人近くの青年たちが集まり、日曜日の朝 8 時には訪問伝道を実施し、3 か月に及びました。サンフェルナンド教会は、その訪問伝道の実から始められました。ビデオに収められているのは、その訪問伝道の最初の日の様子です。

ビデオ　6　　サヤガン建築現場他

https://www.youtube.com/watch?v=yH3fsBdJw_8&t=3235s
01 4 a 1920x1080 B 250724172526CFM143019

このビデオには、たくさんの場所の伝道の様子が入っています。
1. サヤガン教会の建築現場　　開拓９年以上たって、やっと会堂建築にこぎつけました。非常に伝道の困難な場所と言われ、当時の教区長は、自分たちの経験から、この場所での開拓は考えない方が良いと、アドバイスしてくださいました。しかし頑固な開拓牧師のコチンゲイ夫妻と、彼らと同じくらい頑固な宣教師の私が、そう言われれば言われるほど情熱を沸騰させ、長い忍耐深い働きを続けてきたものです。

２．ナトブラン教会の礼拝会の様子。これはサヤガン教会を開拓した牧師が、車で２0~３０分かかるこの場所で開拓したいと言い出し、私たちのチーム全員が協力して始めたものです。その開拓の様子はの「ビデオ 1」に収められています。

３．私たちの家から、７～８０km 離れた港町、サンフェルナンドの開拓と、３年後ほどの礼拝会の様子。市の中心に、これ以上汚い場所はないと思われるようなところにある、２階建ての 2 階の部屋。何とか整理して使い始めて 2 年ほどです。

４．　バワンの開拓伝道　　サンフェルナンドから車でおよそ 15 分。直接の責任は、若い女性の伝道者ですが、サンフェルナンドを任せた青年伝道者が指導をしています。

５．イングランディアでの、夜の家庭集会。サヤガン教会の伝道の一環。イギリスに稼ぎに行っていた人が帰ってきて、ここはイギリスと同じくらい寒いと言ったことで、この名がつけられたそうです。海抜２，５００ｍを超えるらしく、夜は凍えるほど寒い。当時、バギオ市にあった私たちの神学校 APTS に在学していた、佐藤神学生も学びのために同行していました。

6. サヤガン教会の礼拝会。開拓 9 年目。この時点ではまだじゃが芋の倉庫だった建物を借りて、集まりをしていました。しかしこの集会場ももうすぐ終わりになります。今会堂が建築中ですから。

7. シピータンにおいて開拓伝道をしていた、サヤガン出身の若い女性、アイリーン姉を訪ねました。当時は、隙間だらけのみすぼらしい小屋でした。私たち教会の多くは、彼女のような信徒伝道者によって始められたものです。姉妹はその後結婚しましたが、若くして天に召されてしまいました。その子供がいま、他の所で活躍していて、私のビデオのそこここに、恋しいお母さんの姿を見ては感動しています。また、姉妹が始めた開拓は、素敵なことに、今や立派な教会に成長しています。

８．巨大ながけ崩れで被害を受けた、バゴ集落とそこにある私たちの教会を訪問しました。

ビデオ　7　　地震後の訪問

https://www.youtube.com/watch?v=mYrqQZ63M04&t=1965s
https://www.youtube.com/watch?v=mYrqQZ63M04&t=483s

１９９０年の大地震の後に撮った、ビデオの 1 本目です。テレビ局に貸したビデオは、さんざん使われたあと行方不明になってしまったとかで、戻ってきませんでした。このビデオでは、私たちが開拓に力を入れてきた、フィレックスの被災の様子をお見せできます。こんな状態でも、私たちの兄弟姉妹たちは、力強く生きていました。

フィレックスの後、私たちは方々の教会を訪ねましたが、一切の連絡が絶たれていた山岳奥地の教会に連絡を取りたいと、無理矢理に、そちらへ行ってみることにしました。回り道をし、四輪駆動車しか通れない道を通って、やっとの思いで目的地に行きつきました。

幸い地震の直接的な被害はありませんでしたが、大動脈の道が崩れ、通られなくなっていたため、バギオと行き来ができず、野菜の出荷もできなかったために、被害がとても大きいということでした。高原野菜の産地で、広い畑一面のキャベツが、収穫されないままに腐れはじめているのを見て、悲しみがこみ上げてきました。

　幸い、山岳奥地の教会に、さほどの被害はなかったと聞いて安心した私たちは、幸い復旧したばかり」という、主要道路に乗って帰ることが出来ました。でも後で聞くところによると、ベン・バランさん（日本宣教関係、No76）の若い奥様は、この地震の時はまだ小学生で、ここからさらに車で何時間も奥に入ったところにある、バルバリット集落の険しい土地に建てられた家の中で、崩れ落ちてきた大きな石に足を潰され、障害者になったのだということでした。彼女は優秀な子で。それから高校とさらに上の学校に進み、立派な職業を身に付けたということでした。

ビデオ　8　　現在削除されています。

　理由は不明ですが、視聴者から抗議があったとかで、Youtube に削除されたようです。もしかしたら映像中に、裸の子供か、授乳中の母親の姿が映っていたりしたのかもしれません Facebook に載せたそのような写真が、削除された経験があります。もう一度、映像を良く調べたうえで、問題になりそうな場面をカットして、友人に再掲載してもらうつもりです。このビデオは No. 12 の後に続く、カアンの交わり会の第２日目です。

ビデオ　9　　超教派交わり会

https://www.youtube.com/watch?v=uAQ4TV1cX2s

　私たちが、バギオ市で伝道を始める、前のことです。私たちより数年後にバギオ市に来た、New Testament Church of God という団体の宣教師が、四年間の働きの後、アメリカの自分たちの教会を巡回して、宣教の働きの報告をし、協力を求めるために帰国することになりました。そこで彼は、自分が始めた聖書研究の働きを、私に譲って行く決心をしました。私たちは共に、ペンテコステの流れに属する宣教師だったからです。ところが困ったことに、私たちのフィリピン・アッセンブリー教団では、すでに存在しているアッセンブリー教会の、半径７Ｋｍ以内で伝道を始めてはならない

という、はなはだおかしな、また否聖書的な規則があったために、その働きを譲り受けることが出来ませんでした。互いに喧嘩をしてはいけないからだそうです。バカみたい。聖書の教え、キリストの精神はどこに消えた？

でも規則は規則です。守らなければなりません。そこで私は譲り受けるのではなく、彼の留守の間その働きを継続し、彼が再赴任の折には彼にお返しするという約束で、聖書研究の働きを継続しました。銀行の支店長や前市長の奥さん、国立の士官学校の教頭、いくつかのガソリンスタンドを経営する女性など、そのころ少しずつ台頭して来ていた中産階級の上部に属する人たちが、２０人ほど集まっていました。教養もあり、ほとんどが大学の卒業生で、能力が高く、楽しい聖書研究会を１年ほども続け、戻ってきた宣教師にお返ししました。人数も倍くらいになっていたと思います。そしてこの教会の成長は目覚ましく、たちまち、バギオ市で最も大きなプロテスタントの教会に成長しました。

その働きを見て、私たちもどうしてもバギオ市に開拓を始めるべきだと思い、教団の総理に談判し、教区長にも掛け合い、すでにバギオ市に存在していたアッセンブリー教会の牧師が同意したならば、市内で働きを始めても良いという許可をもらいました。それから市内のアッセンブリー教会の牧師に面会を求め、４時間ほどもかけて説得をしました。始めは怒りで顔色を変えていた牧師も、私の聖書を開いての説得にやっと心を開き、自分の教会からは信徒を盗まないという約束で、許可をくださいました。私たちがバギオ市で開拓を始めたころには、先の聖書研究会の会衆は数百人の教会となり、バギオ市で最も伝統と格式を持っていた、パインズ・ホテルのメインホールを借りて、礼拝会をしていました。

彼らに数年遅れて、自分たち独自の開拓を始めた私たちも、低所得・低学年層のイロカノ語の人々、また、経済的には何の力もない大学生たちを中心に、数百人の会衆ができ、市内の教会にも知られるようになったため、超教派の交わり化を催すことになりました。しかしおかしなライバル意識ばかり強い牧師たちは、私たちの呼びかけを全く無視。結局、集まったのは、私が聖書研究会を引き受けたグループから出来上がった教会と、私たちの教会だけでした。ペンテコステ派というものが、まだまだ認知されていなかったこともあったようです。

若いのにひげを生やした、New Testament Church of God の牧師は、私が訓練し、その後アメリカの彼らの聖書大学で学び、牧師になった人物です。まあ、良く歌うことフィリピン人は。

　その後、私たちの教会はずっと成長し続け、沢山の開拓を行い、伝道者、牧師、宣教師たちを生み出し、世界に広がっています。

ビデオ　10　　バラトック教会交わり会

https://www.youtube.com/watch?v=lFqOtLtOR2I&t=429s
https://www.youtube.com/watch?v=lFqOtLtOR2I&t=331s

　バラトック教会の、闘鶏場を借りての三日間に及んだフェローシップ。このころバラトック教会は八つの会衆を纏めて、教会として機能していました。牧師は各日曜日一か所だけしか行くことが出来ませんでしたが、残りはみな信徒たちが礼拝会を独自に礼拝会を行ていました。そのための訓練会は、毎週のように行われていました。また、毎日曜日の午後には、バギオ市のホテルを借りて、全部の会衆から来ることが出来る信徒たちを集め、自分たちは異なった会衆に所属しているけれど、皆一つの教会の信徒であることを強調し、自覚させるためのものでした。この闘鶏場で開かれたフェローシップは、さらに、バギオ教会、フィレックス教会など、私たちの仲間教会から、さらに、モンテンルパからの仮釈放物者たち、その上に、ベンゲット県の知事が出席していました。

ビデオ　11　　アゴオ洗礼式　古着

https://www.youtube.com/watch?v=-naHR8mzpr0&t=103s
https://www.youtube.com/watch?v=-naHR8mzpr0&t=681s

　１９８９年６月６日。金鉱山会社の中にある、私たちの二つの教会、バラトックとフィレックスの合同洗礼式。名目は洗礼式ですが、山の上の人たちのこと、まだ海を見たことがない子供たち（だけではない）も引き連れて、アゴオの海岸に来ました。

　次は、１９８９年１１月の、平地のオルダネタ町に開拓して間もなくの集まりです。

　その後は、私たち家族が居候をしていた、トゥディング教会の女性たちが組織してくださった、古着整理奉仕隊です。私たちは日本の教会から、年間１７０～２００個くらいの、段ボール箱に詰められた古着を寄付してもらっていました。１個当たりのフィリピンの港までの送料が、およそ３５００円から４０００円ほどかかりました。でも日本の信徒の皆さんは、もったいないから捨てられないと、箪笥の奥にしまい込んでいた古着が役に立つならと、惜しげなく送ってくださいました。

一度にたくさん送られて来た場合は、港の関税事務所に留められて、受取人が自分で受け取りに行くことになります。しかし私は清濁併せ飲まれる神様にお仕えする、小さなことにはこだわらない、「魚心には水心」のグータラ宣教師です。この事務所に荷物を受け取るために行ったのは、一回きりです。

ある時、１００個くらいの段ボールが一度に着き、不適切なものが含まれていないか、細かく調べた上、適切な税金を請求しなければならないから、朝から事務所に来てくれという通知が届きました。朝９時前から事務所で手続きを始めましたが、大きな倉庫では５人程の職人が、段ボールを開けては、一つ一つの古着をチェックしていました。その遅いことと言ったら・・・・！　１日中かかっても、終わりそうにはないとうんざりしたものです。

物凄く暑い事務所の中で、所在なく待っていた私ですが、１０時も過ぎた頃、この部署の職員が１０人程詰めている事務所で言いました。「暑くてかなわないね。皆さんも大変ですね。いかがですか？ 冷たいソフトドリンクとスナックでも買ってきてくださいませんか？ ここにいる全員と、向こうの倉庫で働いている方々も、一緒にちょっとだけ、お休みしませんか。ここに３００ペソありますから、どなたか、適当に買ってきてください。」職員の中で一番偉そうな人が頷いたところ、若い女性職員が二人、私からお金を受け取ると、喜んで外に飛び出して行きました。そして間もなく、おやつの時間が始まったのです。

私は言いました。「しかし最近は公務員の皆さんも大変ですね。政府に金がないから、賃金も未払いですし、大統領の側近が、裏庭菜園などを提唱して、なんとかしのごうとしているわけですから・・・・。そうだ。皆さん。お分かりのように、私はイゴロットたちの間で、宣教師として働いていて、これらの古着は、彼らの中の貧しい人たちへの日本からの支援です。みな、ただで配布されることになっています。でも見ていると、皆さんの生活も大変ですよね。どうですか、皆さんの家に一緒に住んでいるすべての人のために、皆さんがこれはと思う古着を一点だけですが・・・選んで、今日、持ってお帰りなっては？」

突然の私の申し出に、みんな驚いてしまったようですが、目が輝きだしました。「本当ですか？」と、この事務所のボスのような職員。「本当ですよ。皆さんと一緒に住んでいるなら、身分は問いません。孫だろうがお婆さんだろうが、親戚の子だろうが、皆が喜べるのが一番でしょう。さあ、早く選んでください。」

それからひと時は大騒ぎでした。１００個の段ボールのほとんどが、たちまち開かれました。そしてそれぞれ、一人に一点の古着を手に入れたのです。それからがまた面白い。

あれだけのろのろと進んでいたチェックも、「あれ！！ もう済んだの！？」と驚くほどのスピード。 それだけではありません。関税なんてかかりませんとのこと・・・「どうなっているの！？」　さらに、事務所の６トントラックで、すべて、我が家迄届けてくれるというのです。もちろんガソリン代も事務所もち。ただし、この税関の一番上の役人、いわゆる所長も呼んできて、同じように、古着を選ばせてくださいと言うのです。「ああ。もちろんですよ」と、二つ返事の私。

すべては丸く収まりました。私の車だと、８０ｋｍくらいの道のりを、７往復はしなければならないだろうと、踏んでいたのですが、あちらさんが何もかもやってくれるそうです。事務所を出るとき、ふと倉庫の中に山積みになっている袋や、段ボール箱があるのに気付きました。「あれは誰のものですか」と尋ねると、一番下っ端のような職員から、驚くべき答えが返ってきました。「あれはアメリカと、ヨーロッパの宣教師へ送られてきている古着です。彼らは立派な人たちで、机の下（わいろ）は絶対に出さないし、税金も払いたくないと言い張り、ここで働いている人たちに気を遣うこともしないから、もう何年もあそこに積み重ねられたままなんですよ。おまけに、彼らの体臭がものすごく強いので、閉口しているんですよ。熱さに蒸れて、とても近づけたものじゃないです。白人って、物凄く体臭がきついですね。かといって、捨てることもできないし、保管料が相当になっているはずですよ。」

私たちの神様は人間の弱さをご存知の、清濁併せ飲んで下さる神様。私はというと、魚心に水心の宣教師。硬いことは言わずに、「３方一両得」。ここらで手を打つのが一番。それから、私の所に来る古着は、すべて関税なしの、配達つきとなりました。自分の高尚な倫理観を前面にだし、現地の人々の生活と気持ちには目を瞑って、高い税金を払うか、保管料まで出して体臭で蒸れる古着を受け取るか、廃棄処分にされてしまうか。

この日の古着の配達は、シナクバット迄。バゴ集落とボエン集落へは足と手で届けてもらう。大人たちは、私たちの到着があれやこれやで大幅に遅れたため、畑に出かけてしまったようです、それで残っていた青年たちと、女性と子供たちが力を発揮、険しい坂道を飛ぶように進んで行きました。

ビデオ　12　　カアン交わり会第一日目

https://www.youtube.com/watch?v=TlIS_ay_ixM&t=776s
https://www.youtube.com/watch?v=TlIS_ay_ixM&t=1233s

カアンの交わり会に出席。　朝早く我が家を出ましたが、なかなか山道は大変、特に新しくブルトーザーで切り開いた道は、大変な難儀をしました。どうぞご覧ください。私の妻は、無理なことを言い続けます。運転したことがない人は、運転の怖さを知らないのです。こんなところから落ちたら、数百メートル、千メートル近く落ち続けるでしょう。私の車には、いつもしゃべるが二本程用意されていました。

車を降りた後は、途中で合流した交わり会に参加する者たちと一緒に、きつく、楽しいハイキングです。急で細く獣道のような道を歩き、沢の流れで休憩。さらに歩き続け、目的地カアンに到着しました。カアンは二十五家族すべてが私たちの教会の信徒。ただし、二年前にできた複式授業の小学校の先生だけは違った。この小学校は複式、すなわち一つの教室で、二つの学年の子供を教える。しかもそれが一年ごとに代わる。卒業までは何年かかるか分かりません。

ちょうどこの日は、小学校の卒業式でした。十五〜十八歳くらいの子供たちが、八人卒業と聞きました。しばらくはこの山の上での卒業式をご覧ください。父母、家族、親族知人友人と、みんな集まってきました。そして、この人たちはほとんどがクリスチャン。卒業式で歌われた歌もクリスチャン・ソングでした。このまま夜になって、今度は私たちのフェローシップ。

ビデオ　13　モンテンルパ仮釈放者訓練会

https://www.youtube.com/watch?v=paOZgKPl_z0&t=283s
https://www.youtube.com/watch?v=paOZgKPl_z0&t=143s

海岸の町アゴオで、モンテンルパ刑務所の保釈者を対象に、２週間に及ぶ訓練会を行いました。アゴオの教会は、１年と少し前に、バギオ教会の働きを辞任して、ここに越してきたジュン・マグリクモ先生によって、始められていました。

アゴオはとても伝道の難しい町と言われています。たくさんのプロテスタント教会が伝道を試みましたが、すべて、稔りなく終わっています。理由は、ここに特別なカトリック

教会があり、住民たちのほとんどが熱烈なカトリック信者だからです。ここにあるカトリック教会の会堂は、贅沢な材料をふんだんに使った見事なものです。それもそのはず、この教会は、ローマ教皇が牧師という、名誉ある教会なのです。この教会のマリア像は血の涙を流すとか、教会にまつわる不思議な物語も多く、彼らの祭日になると、熱心なカトリック信徒が、マニラから２００ｋｍ以上の道のりを、参拝者の車でびっしり、身動きできない程にしてしまうということです。

幸い開拓伝道に乗り出した私の協力者は、賢く、忍耐深い働きを続け、目を引くような目覚ましい結果は無くても、確実に成果を上げていました。そんなところに、マニラ在住で、モンテンルパ刑務所で働きを始めていた、私の友人の信徒から要請があって、刑務所から保釈された１０人程の、社会復帰と、伝道者となる訓練を引き受けたものです。

保釈された人たちは、もっとも重い犯を犯し、多くは死刑判決を受けていた人たちでしたが、刑務所の中でイエス様に出会い、その人生が激変したため、特別処置としての保釈が認められたのです。中には、６歳で捨てられ、路上生活をしながらあらゆる犯罪に走り、殺した人の数も覚えていないという人物もいました。彼は１６歳で逮捕され、懲役３００年と３重死刑と言う面白い(?)判決を受け、もっとも罪の重い者たちが収容される、モンテンルパに送られたのです。

刑務所の中でも彼は悪の実力を発揮して、刑務所の中でもっと大きなギャング集団のボスに収まり、５００人の手下を従え、刑務所内を牛耳るばかりか刑務官たちまでも手なずける一方、釈放された人間たちを操って、娑婆の世界でも、とても恐れられていたのです。刑務所の中で殺した人の数は、これもまた数えられないとのことでした。

教会での訓練を終え、彼らは（全員ではありませんでしたが）７０Km ほど離れた　山の上にある、私たちの家まで訪れてきて、夕食を一緒に楽しみ、交わりを豊かにしたものです。ご覧の通り、ある者は奥さんや子供たちを連れてきていました。彼らは定期的に刑務所に戻り、娑婆での生活の報告をしなければなりません。無事に保釈期間を終えると、完全な釈放になるのです。実際に、何人も釈放され、牧師として活躍しています。

５：２５　からは、私たちが副業（？）としてやっていた、日本の教会からの古着の配布の働きのようすです。この時は量がとても多いので、私のパジェロでは片道六時前後の道のりを、一日一往復、三日で計三往復しなければなりませんでした。しかも三日目は早くも雨が降り出して、動けなくなったので、集まって来た信徒たちと臨時の集会。その後帰途につきましたが、四輪駆動車のパジェロも立往生で、結局最後は車の中で一泊。次の日は日曜日、私と通訳者はナトブラン教会の礼拝会に出席。牧師のコチンゲイ先と信徒の

方々に、事のほか喜ばれました。家に残されていた家内と次男は、「鬼のいぬ間」に、近くの教会に出席して喜んでいることでしょう。

ビデオ　14　　バギオ教会礼拝会

https://www.youtube.com/watch?v=Q2krYlNcADc&t=15s
https://www.youtube.com/watch?v=Q2krYlNcADc&t=1283s

１９８５年の雨季、久しぶりにバギオ教会の礼拝会に出席しました。私が住まわせてもらっているトウディング教会から、６Km を少し超える程度。バギオ市の中心部にあります。かなり険しい道を登り、バギオ市内に入るのですが、時は雨季。道そのものが川のようになり、一年前に起きた大きなな地滑りの修復が、まだまだ終わっていません。

バギオ市はアメリカの殖民地だった頃に、彼らの避暑地として建てられた街で、日本の軽井沢のような高級別荘が立ち並ぶといえば恰好がいいが、別荘の持ち主の金持たちは、長期の休暇にしかやって来ません。いつの間にか、雇われた管理人たちの町になり、いつしか、大部分が貧しい者の町になってしまいました。しかし、涼しく学びにてきしているために、五つの大学があり、学生の町ともなっています。私たちの教会の周りにも、三つの大学がひしめき合っています。

教会に到着したときは雨があがり、つかの間のすがすがしい空気を楽しむことができました。すでに、現地の主な言語、イロカノ語の礼拝会が始まっていました。英語の礼拝会の準備が進められていて、日曜学校のようなものが始まっていました。私たちが訓練した大学生たちが教えたり、案内係を務めていましたが、厳しい宣教師が来たと、学生たちは少しばかり委縮していた感じですが、明るく活発で、好感が持てます。

私たちがこの教会を建てたのは 3 年ほど前です。当時私たちの教団、フィリピン。アッセンブリー教団には、当時おかしな、というより、非常に非聖書的な規則がありました。これはフィリピンがアメリカの殖民地となって間もなく、アメリカから七つのキリスト教団体がやってきましたが、互いに喧嘩を避けようと国土全体を七つに分けて、それぞれの団体が一区分を受け持って伝道したという、歴史に倣ったものです。自分たちの仲間内でも平和には過ごせないのは、戦いばかりやってきた悪しき西欧型

キリスト教会の性です。それで、後から入ってきた私たちの宣教師たちも、自分たちの教団の内部での争いを避けるために、このおかしな規則を作ったのだろうと、思わず想像を逞しくしたものです。

その規則とは、先に建てられたアッセンブリー教会の、半径七ｋｍ以内では伝道をしてはいけないと言うものでした。そしてこの町には、すでに戦後まもなく入ってきた宣教師によって建てられた教会が、既に存在していたのです。この教会は当時様々な内紛で、寂れ衰え、信徒の数は激減し、教会堂も修理がままならないままに、屋根も崩れかけ、みすぼらしい姿になっていました。私たちとしては、なんんとしても、周囲の山岳地から仕事のためにこの町に出てくる信徒たちのために、自分たちが活動できる教会を必要としていました。

それで私はマニラに出向き、当時のアッセンブリー教団の総理と聖書をもって議論をし、この規則の間違いを指摘し、納得させ、次に教区長を納得させ、ついに壊れかけた教会の先輩牧師も納得させ、平和裏に、バギオ市での開拓伝道の同意を取り付けることに成功したものです。

幸い良い協力者たちにも恵まれ、開拓伝道は数年のうちに大学生 300 数十人、イロカノ語の大人たち １００ 数十人、タガログ語の会衆 30 人くらいとなりました。それに子供たちも加わり、教区内で、最も多くの人たちがある丸きょうかいとなりました。

ただ私自身は、この教会の礼拝会にはめったに顔を見せませんでした。すでに、私たちと一緒に働き続けてきた立派な牧師がいたためです。私はもっぱら小さく弱い山奥の教会の礼拝会に出るようにしていました。しかし週日には牧師と話し合いの時をもち、信徒の訓練に参加し、あまり見えないところで働いていました。

礼拝会が終わり三々五々と帰っていく人たちがいると思うと、そのまま残って午後の活動に参加するため、昼食を一緒にする者たち。

このビデオにはそれから半年後の礼拝会や、いつか分からない礼拝会の様子、さらには山奥の教会に行く途中、銅鉱山の大型トラックが横倒しになって山道をふさいでしまい、通行不可能のためバギオ教会に戻った時の礼拝会、開拓何周年目かの記念礼拝会のため、開拓宣教師として特別講師に招かれた礼拝会などが、整理できないまま入っています。当時は今のようなパソコンがなく、特別な機器がなければ編集ができなかったためです。

最後にはこの教会の開拓をしたマグリクモ牧師が、長老牧師たちのやっかみによる介入と争いを避けて、一切の争いをもなしにさっさと辞任し、海岸沿いの町に出かけて、開拓し始めた教会の有様が入っています。

ビデオ　15　バギオでの伝道者訓練会など

https://www.youtube.com/watch?v=Yq9ncbV869o

このビデオには、まず毎週火曜日にバギオ教会で行っていた、協力伝道者訓練会の様子が入っています。この当時、１０数人の訓練生がいましたが、多くは信徒伝道を志す者で、聖書学校を出た者はわずかでした。ちょっとマーケットに行って、昼のおかずも買いだして来ました。

１：１５　バラトック金鉱山町の街並みと、夜の開拓５周年記念集会です。もともと、山岳地出身のイゴロットたちと、平地出身のカトリックを背景にした人たちを、別々の会衆として育て、ときおり交わり会を行っていましたが、信徒たちの中から「私たちは異なった部族で異なった言葉を話し、異なった文化の中で生きてきましたが、今は主によって一つにされているのですから、どうして別々の集会を続ける必要があるのですか」という意見が出始め、とうとう一つの教会としてまとまったものです。と、いうより、初めからそうなるのを狙っていたものです。

９：３７　ある日曜日、サヤガンを訪問しました。じゃが芋の倉庫だったみすぼらししい建物を借りて、集会をしていました。たしか、牧師家族も、この小屋の後ろの部分に住んでいたはずです。でも、それももうすぐ終わります。５００平方 ｍ の土地を手に入れ、会堂の建築が始められるからです。この建築には、同じ場所に古くからあったアングリカン教会からの、支援が力となりました。

アングリカン教会が朝のミサを終えてから、彼らの信徒たちの多くが、私たちの教会に出席し、恵みを得ていたのです。ただ私たちは、彼らが定期的な献金を私たちの教会に持って来ることを断り、さらに私たちの教会に移ってくることも赦しませんでした。あなた達は、ここで恵みを得たならば、自分たちの教会に戻って祝福となりなさいと励ましたのです。これに感動したアングリカン教会の司祭は、まず、セメントブロック５００個を献品してくださり、その後も、何かと力になってくださったものです。

また私が１０年間この山道で駆使し続け、４０万キロも走った三菱ギャランを売ったお

金の半分を、材木購入のために費やしました。そうそう土地の購入費も、もとはと言えば、日本の教会からの献金でした。でも、開拓を始めようとしたとき、当時の教区長から、あそこは難しい場所だから、やめた方がいいよと言われたのに、なにくそと頑張った、現地の伝道者の食らいつきが、神様の祝福をもたらしたのでしょう

１９：５２　ナトブラン教会のために労働奉仕に来ていて事故に遭い、完全な植物状態になった男性の（ベン・バランさん）の３人の子供たちを訪ね、それからの彼らの身の振り方を祈り、考えました。奥様が教会に来始めておられたのですが、御夫婦とも土地の人間ではなく、出稼ぎに来ていたため、まったく頼る人がない状態になっていたのです。それで奥さんは、幼い３人の子供を育てていくために、他の男性の所に行ってしまったのです。

私は長い間、この奥さんを少し軽蔑というか、好ましくないことをした女性と考えていました。しかし、歳もかさねた最近は、この女性は母親として、捨て身の覚悟をして、体を動かすことも、話すこともできない夫を残して、子どもをつれて他の男性の下に走ったのだと、理解できるようになりました。３人の幼い子供を抱えた母親の、必死の行動だったのです。

私たちは主の教会として、彼らの生活を支えるために、あらゆることをしていました。また、し続ける覚悟でいました。でもそれを、教会に来はじめて間もない彼女が、理解できるはずもありませんでした。私は彼女に対する自分の態度を改めました。彼女はその後しばらくして、その男性とたきぎを集めに行って、倒れてきた松の木に打たれ、その場で亡くなってしまいました。後になって、男性も即死だったと聞きました。

神様のなさることは、時として私たちにはわかりません。それで、３人の子供たちは、父親の許にもどることになったのです。でも、なんとも生活が成り立ちません。それで母親が通っていた教会の牧師と共に、少しの間、近所の人たちの世話になっていた、子どもたちを訪ねたのです。このお話は、ベン・バラン兄弟の物語として、別の所で語っています。そちらをご覧ください。（日本宣教関係の No.76）

２３：４０　　フィレックス教会の礼拝会に行ってきました。私たちの家から車で小一時間の所にある、金鉱山会社がフィレックスです。ここは後程、１９９０年にこの辺り一帯を襲った地震で、大被害を受け、私たちの教会の信徒たちも、大きな苦しみを忍ばなければなりませんでした．地震の被害のようすは、㉑で見ることが出来ます。

ビデオ　１６　100 歳のおじいさん

https://www.youtube.com/watch?v=u-8Bwx70MG0
https://www.youtube.com/watch?v=u-8Bwx70MG0&t=488s

山岳奥地伝道で１０年たって、やっと手に入れた４輪駆動車、三菱のパジェロ。パリダッカレースで何年も続けて優勝したとかいう噂の通り、非常に信頼できる優秀な車でした。また、私たちの目の前を、信徒たちを乗せて走るジープは、マニラに住む私の友人が、この伝道にとプレゼントして下さったもの。この日は、かつてクリスマスイブに伝道集会を開いた、シナクバットへ再訪問。それから、信徒伝道者　ウイシトウ・ボグトン師のもう一つの会衆、パパソックを訪ねました。パパソックはすでに全１６家族がクリスチャンとなり、彼の会衆に加入しています。いろいろな意味で、彼の働きの中心です。以前は放し飼いの豚が沢山、我が物顔に走り回ったいましたが、時間をかけた指導に、最近は、囲いを破って出てきた豚が時たまいるだけです。豚は人間にいろいろ近いところがあって、人間の感染症の仲介役になることが多いのです。

ビデオ　17　　　ラマオ

https://www.youtube.com/watch?v=bY48bAXUUJ0&t=249s
https://www.youtube.com/watch?v=bY48bAXUUJ0&t=39s

全編、当時もっとも行き着くのに苦労した、ラマオ集落への訪問。集落の様子と私たちの集会の様子です。普通は車を降りてから、およそ 5 時間の徒歩ですが、この時は途中、信徒の家で一休みしましたので、6 時間ほどもかかってしまいました。当時高校生だった私の長男も同行しています。この集落は 11 戸の家がありましたが、その内、6 戸が私たちの教会に所属しています。あとは、珍しくカトリックの信徒が少しと、元々の土地の宗教を持ち続けている人たちです。

ある時、この集落で麻疹が流行り、数人の子供たちが死んでしまいました。そのため、私たちの教会の信徒たちは、子供たちを連れて親族や知人を頼りに、避難していたことが

ありました。偶然にというか、神様のお導きで、私たちはバギオに避難していた二人の子供たちを見つけました。そうそう、トラクトを手に、訪問伝道をしていたところ、子どもたち二人だけが、暗く閉ざされた家の中で寝込んでいたのです。

それでわたしたちは、すぐに子供たちが麻疹にかかっていると判断し、家を離れていた父親に伝言を残し、国立病院に運び込みました。幸いにも私たちの教会には、バギオ市の保険局の主任看護師がいたため、彼女に連絡して、貧しいイゴロットの為の、無料の治療プログラムに入れてもらうことにしました。

それから私たちは、父親の話を聴きました。他に信徒の子６人が、他の県の海辺にある、小さな国立病院に運び込まれているそうです。そこには薬も医療施設もないことを知っていた私は、大きなフォードの V8 のバンを緊急で借り出し、7 時間かけてその病院にはせ参じました、その小さな国立診療所の、お医者さんたちには気の毒でしたが、彼らと散々激論を交わした挙句、全員を持ち出して（文字通り、運び出して）、バギオの病院に連れて行くことが出来ました。「どうなろうと、僕たちは責任を取りませんよ」という医者の捨てぜり不を後に、「薬もない、治療器具もない。満足に食べさせることも出来ないあなたたちに、どうやって、栄養失調で麻疹にかかっている子供たちを、助けることが出来るって云うんだよ」と、心の中で悪態をつきながら、トップ・スピードで車を走らせました。

その後ただちに、この麻疹の発生を県の保健所に報告し、すぐにも医師と看護婦を派遣してくれるようお話ししました。これがまた、大騒ぎに発展したのですが、長くなりますので、その話は・・・また機会があれば・・・・にします。慢性栄養失調の子どもたちは、麻疹でもすぐに死んでしまうのです。この時は、私たちの教会の信徒の家族には、一人の犠牲者が出ないで済みました。

この時から少し後に、日本の八王子教会の上原時枝先生と信徒たち、須崎教会の柿谷先生、それから、モンテンルパ刑務所から仮出所していたクリスチャンたちが、一緒にここを訪れたことがあります。そのときの様子は⑫のビデオに入っています。

ビデオ　18　　宣教師訓練旅行

https://www.youtube.com/watch?v=9SYAiewEvAY&t=1653s

フィリピン北部山岳奥地宣教 18 - YouTube

URL が不揃いで済みません。何しろ私はデジタルどころか、アナログ前の人間ですから・・・。このビデオは、先に開拓していたバギオ教会の大学生たちを連れ出して、宣教師訓練をする様子です。カアンとバガアンに行ってきました。この中からも宣教師たちが生まれています。フィリピンの私たちの教団で、現在の副総理や海外伝道部長をしている人物も、大学生らしい溌溂とした姿を見せています。バギオ教会からは、たくさんの宣教師や伝道者が起こっています。私たちのバギオ教会設立のときの、夢の一部が実現しました。

ビデオ　19　クリスマスイブ伝道会

https://www.youtube.com/watch?v=Rr2cq4TB32A&t=38s

１９８７年１２月２３日、山岳奥地の一つの集落、で開拓伝道の手助けをしました。この集落は私たちに取って、長年馴染の深いものでした。私たちがここまで車でやってきて、これより奥地は車が入り込めないので、車を知人の家の前に止めて、さらに徒歩で奥地に向かったものです。

この周辺では中心的な開けた場所ですので、以前から何とか伝道をしたいと願っていたのですが、信徒たちがこの集落でも最も年齢を重ねた、つまり尊敬される長老に少しずつ福音を語り、その男性と家族の者たち数名が、すでに洗礼を受けていたということです。私たちがこの辺りに来始めた頃は、ここまででさえ、１２時間ほど歩いてやって来ていたものですが、この時点ではすでに何年も前から、道も少しばかり開け、私の三菱ギャランという１６００cc のセダンでも、無理をすれば来ることが出来るようになっていました。

さて、その長老のご老人ですが、すでに１００歳だということで、何と今日は・・・・昔のことで不確かではありますが、どうやら、誕生日ということで、お祝いのパーティを開き、近所の人たちも招き、それを伝道会にしようということでした。この老人は、１８９７年にアギナルド将軍（フィリピンの初代大統領）が、少し離れたテラド峠というところで、アメリカア軍に対し最後の戦いを挑み、敗れて降伏したその戦闘を目撃したのだそうです。当時１０歳だったと言いますので、たしに、この年で１００歳ということになります。

老人はこの辺りの人々の誇り高い習慣として、すでに自分の棺を準備し、家の軒下に保管してありました。大きな松の幹をくりぬいた見事なものでした。私たちは歌い、祈り、聖書を開いてお話し、たくさん食べ、談笑し一日を過ごしました。夜の集会の後は、それ

ぞれ松明を手に家路を急ぐ姿が、まるで狐火のように（見たことはありまっせんが）思えたものです。

１７：３０以降は、これらの集会や会衆の牧会の責任を持つ、ウイシトウ・ボグトン兄の子供たちによって、指導されていました。

ビデオ　20　タジアン開拓

https://www.youtube.com/watch?v=NRjLvN94kB4&t=117s
https://www.youtube.com/watch?v=NRjLvN94kB4&t=85s

タジアン開拓伝道　タジアンは私たちのベンゲット県ではなく、イロコス・ノールテ県の集落です。セルバンテスは少しばかり特殊で、山岳部の盆地に、険しい峠を越えて、スペインの影響が強く及んだ地区です。とは言えそれは昔のことです。スペインがいなくなったあとは、山岳民族の文化が、スペインの影響を殆ど消し去ってしまったようです。盆地の縁に当たるなだらかな土地はまだまだ広く、耕作可能な所がたっぷり残っているため、ベンゲット州の山岳奥地に生まれて、耕す土地が手に入らない人々は、どんどんこちらに移住しています。

タジアンの開拓は、信徒伝道者ウイシトウ先生の子供たちと、信徒たちが移住してきたのをチャンスととらえて、彼らを通して伝道を試みているところでした。移住してきた者たちは働き者で、高い倫理を維持していましたので、短い期間に、先住の人々の好感を得て、すでにかなりの伝道が行われ、とても良い収穫を期待できそうでした。

この集いに応援に来ていた初老の信徒は、自分の家のあるロンボイから、およそ 14 時間・・・・１６時間だったかな・・・・歩いて、駆けつけた（？）という。その道の多くは、それはそれは厳しい山道、獣道。最も、車を見つけて乗り継いでも、５～６時間はかかります。彼は集会でも賛美の歌を披露するのが大好き。交わりを終えた帰途には、さらに周囲の状況を見て回り、伝道の可能性を探りました。「これはいいぞ」という感覚を得たものです

ビデオ　21　キャンプ３の洗礼式

https://www.youtube.com/watch?v=-RBmFQ43p-w&t=1110s
https://www.youtube.com/watch?v=-RBmFQ43p-w&t=265s

このビデオにはバラトック教会の伝道所の一つ、キャンプ３の礼拝会の様子、清らかな流れの岸の食事会、それに続く滝つぼの洗礼式が含まれています。

５：４５程からは、日本の八王子教会の上原先生ご夫妻と信徒たち、須崎教会の柿谷先生、それからモンテンルパ刑務所の囚人たちで、仮釈放されていた私たちの訓練生、その他の訪問者が含まれています。訪問者一行は、体のコンデションに応じ、弱虫組と泣き虫組に分かれて行動しました。弱虫組は、初めからとてもそんな厳しい道は無理だと諦めて、易しいルートを選んだ者たち。もう一つの組は、私たちは大丈夫よなどと「いいふりこいた」までは良かったけれど、必ず途中で泣きを見るぞということで、泣き虫組。私はもちろん泣き虫組に入って出発。結局、目的地までわずか 500 メートルくらいの所で、全身痙攣のため動けなくなった女子大生を、背負って歩く羽目になりましたが、その部分の記録は残念ながら、どこかに紛失されて残っていません。

泣き虫組はまずカアン集落に向かいました。ここは全２４個が全て私たちの教会の信徒で、信徒伝道者リワヤン先生もこの集落の人です。ここで夜の集会をして大いに楽しみ、次の朝は隣のバガアン集落に向かいました。ここは土地の宗教の祭司がいて、なかなか伝道が困難でしたが、遂に彼が諦めてこの土地を去ることになり、私たちは彼の小さな家を買い取りました。

八王子教会の方々はかなりエキサイト。「福音の汽車」などという歌を唄ってダンスをしていましたが、土地の人たちは汽車なんて見たことも聴いたこともありません。何のことかわからないまでも、輪に加わって踊ったりしていましました。カアンでもバガアンでも、仮釈放された音楽家の兄弟の歌に感動したものです。でも、土地の人は彼のタガログ語の歌の意味は分かりません。

次の朝は、ラマオ集落へ向けて出発。途中バルバリットの信徒の家で一休み。ココナッツを頂いてから、泣き虫になるのは嫌だから、ここから弱虫組に鞍替えを希望する人たちを残し、大きめの沢（川？）に出て、沢エビのごちそうに与り、さらに足を進め、遂に目指すラマオ集落に到着。結局６時間ほどかかりました。楽しい交わり。さすがにみんな、今のところは元気。明日は泣きを見るぞ。でもここでビデオは終わり。続きは紛失してし

まいました。ごめんなさい。

ビデオ　22　　地震後のバギオ教会礼拝会

https://www.youtube.com/watch?v=fkvXiz3XKnc
https://www.youtube.com/watch?v=fkvXiz3XKnc

一九九〇年、バギオ地域を襲った大地震のとき、私たちはちょうど日本に帰国していました。日本のテレビでこの地震のニュースを見た私はすぐさま、当時日本にいた長女を伴い、フィリピンに向かい、マニラで学んでいた長男を引き連れて、バギオに向かいました。その悲惨な様子、特に地元のテレビ・クルーなどが行き着けない内部の映像を撮ってマニラに引き返し、テレビ会社に行き、私のビデオを放送してもいいという条件で、そのテレビ局に集まっていた支援物資を、軍用トラック二台分手に入れて、被災者に届けることもできました。

このビデオは数日後のバギオ教会の礼拝会のようすです。あのような大被害の後にしては、大勢の信徒たちが集まり、良い礼拝会をすることが出来ました。最後に猫と遊んでいるのが、私の長女です。今は彼女の娘が、彼女より大きくなっています。